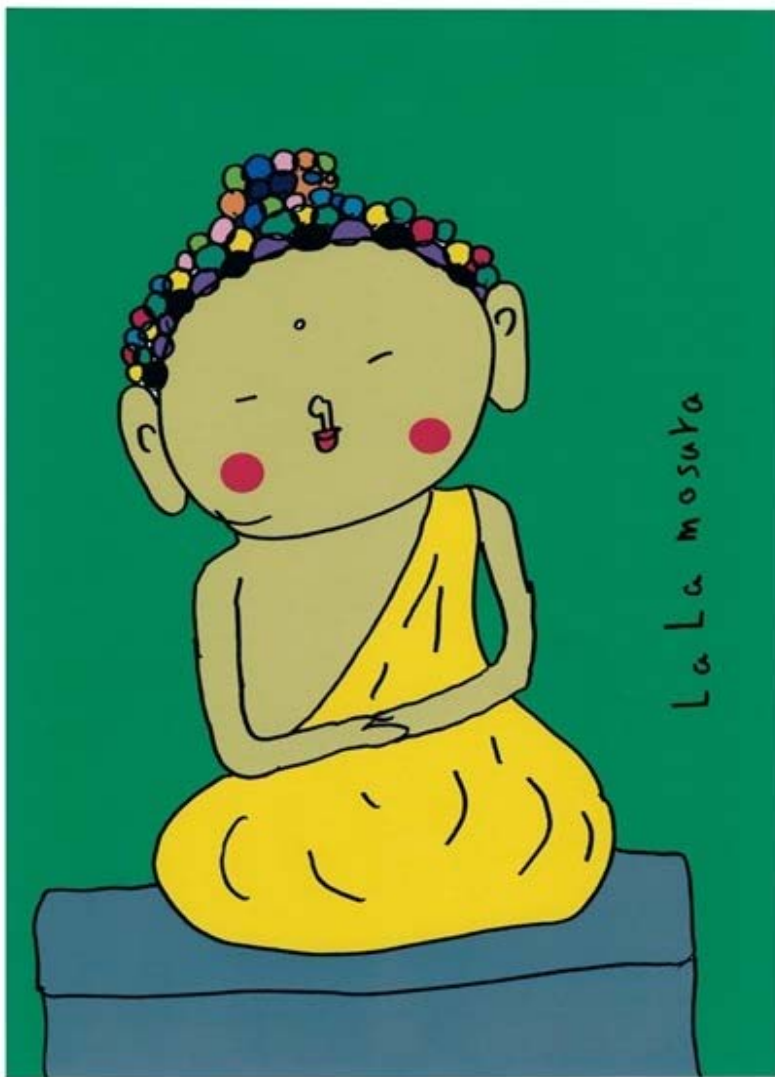


# 石岡地方のふるさと昔話



ふるさと”風”の会

まほらに吹く風に乗って  
＜日本の美しい風景と歴史のプチディクショナリ＞

ふるさと風の文庫

石岡地方のふるさと昔話

木村 進

ふるさと“風”の会

# 石岡地方の昔話 (目次)

・ 柏原池の美少女	3
・ 茨城童子 (竜神山の鬼)	8
・ 蛇の子を生んだ奴賀姫 (ぬかひめ)	12
・ 化け鼠と12匹の猫	16
・ 婆ヶ峰 (ばあがみね) と爺ヶ峰 (じじがみね)	20
・ 常陸国分寺の雄鐘・雌鐘の伝説	23
・ 鈴ヶ池と片目の魚	27
・ 護身 (ごみ) 地藏	31
・ 子は清水	34
・ 爪書き阿弥陀	37
・ 三村落城秘話	40
・ 国分尼寺の黄金伝説	45
・ 吉生 (よしう) と峰寺山	48
・ 仏生寺と北向観音	50

- ・ 小町伝説と北向観音
- ・ 空を飛んでやってきた薬師様
- ・ 国分寺仁王門伝説
- ・ 無駄骨弥兵衛
- ・ 木間塚長者
- ・ 清涼寺の貉（むじな）
- ・ 木比提（きびさげ） 狐の恩返し
- ・ 新池の狐
- ・ ゴボゴボ池
- ・ 残念坂
- ・ 天狗になった長楽寺
- ・ 有明の松
- ・ 縄とき地蔵
- ・ 野々井と大蛇
- ・ あとがき

・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
86	85	83	81	77	75	73	70	68	66	63	61	59	57	53

# 柏原池の美少女（昔話 1）

もう今からずっと昔のことです。

石岡が府中とよばれ、今石岡小学校があるとところに平氏の本家である大掾氏（だいにしょうし）が城を築いていた頃のお話です。

その頃、街はずれにある柏原池は今の何倍もの大きな池で、すぐそばにそびえる竜神山からきれいな水が絶えることなく流れておりました。

街にはお城の侍や商人たちが何時もあふれていてにぎやかな日々が続いていました。

そんなある時、町の人びとの間で月の美しい晩にこの柏原池にそれは美しい少女が現れるといううわさ話が広がりました。

また、この様な晩に竜神山から竜が池に向かつて舞い降り、朝方に山の頂めがけて長い竜がくねくねと登って行くのを見た人がいるとの話もありました。

これは竜神山の竜が美しい少女に化けてやって来ているのだと噂は広がって行きました。

街の若者たちは皆、例え竜でもこの美しい娘を一度で良いから見て見たいものだと話しあっていました。

そんな中、一人の府中の街で評判の勇敢な若武者がこの噂の美少女に一目でよいから会いたいものだと出かけて行きました。

それは、月の澄んだ静かな秋の晩のことでした。

池には周りの木々の影が月明かりで墨絵のように映り、池の表面は鏡のように静かで月もその姿をくつきりと写し、絵にも言われぬ美しい光景が広がっていました。

若武者は池のほとりに腰かけると、手にした横笛を口に当て静かに吹き出しました。静かな池に美しい音色が響いていきました。

すると何処からともなく美しい娘が現われ、この若武者の横に腰かけ、二人はぴつたりと寄り添うように腰かけました。

二人は美しい景色を眺め、若者が吹くうつくしい笛の音が二人を包んでいきました。誰が見ても美しい男女はお似合いの二人に見えました。

二人は夜の更けるのも忘れ、楽しそうに語らい、また池の周りを仲良く肩を寄せ合い歩きまわりました。

その二人の姿は鏡のような池に映り、二人もそれを楽しむかのようにいつまでも離れようとしませんでした。

やがて夜が明け、翌朝になって村人が池に行ってみると、この美しい若武者は水面

に死体となつて浮かんでいました。

しかしその顔は幸せそうに微笑んでいたと言います。

村人たちは、この若くて美しい若武者を憐れみ、ねんごろに葬り、池の畔に祠を建てました。

若武者の死後、この美しい少女は姿を表すことはなくなり、村人もこの娘は竜になつて竜神山に帰つたにちがいないと噂したのでした。

そして、それからしばらくして子供たちの間で不思議な遊びが行われるようになりました。

この池のほとりに建てられた祠の廻りを、息をつかずに足けんけんして、三べん廻ると竜が出てくると誰とも無く言い始めたのです。



でも誰も怖がって途中で足をついたりして最後まで廻った子供はいないので。

どうですか、竜神山の美しい竜に会いたいと思ったら祠の廻りで遊んでみませんか？

竜は姿を見せずとも、きつと竜の鳴き声が聞こえたり、大空を美しく舞う竜の姿を見ることができるともしれません。

